

はじめの一步

<今月の聖句> 「こうして羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れとなる」
(ヨハネによる福音書 10章 14~16節)

秋になると、「つくし保育園を見学したいです」との電話がふえてきます。見学当日、呼び鈴が鳴り出迎えた門に、緊張の面持ちでたたく親と子。無理ありません。これまで家族の中で大切に育まれたお子さんが初めて家族を離れ、社会生活の第一歩を踏み出す場所を決める瞬間なのですから。ちなみに「緊張」するのは親子ではありません。迎えるこちらも同じ。この子に受け入れてもらえるかな。ここで毎日過ごしたいって思ってくれるかな。どきどきしながら、園内を巡り案内していきますが、お見送りの後、十分伝えられたかな、もっとここも伝えたかったなと毎回反省しきりです。

そんな私が「なるほど！」と目を見張る、園紹介をしてくれる人がいます。だれだろう、つくし保育園の子どもたちです。

先日も、ご両親と一緒に、ひとりの女の子が見学に来られました。朝の園庭に踏み込んだ途端、年少～年長の5、6人がわれもわれもと集まってきた。「どこから来たの?」「なんて名前?」もじもじするその子を察してか、さっと二人の年長さんが両方から手をつなぎ、みんなで園庭を一つ一つ案内し始めます。砂場のキッチンセット裏の隙間を抜け、ログハウスの下にもぐり、舞台にのぼって、おままごと。ムクノキをぐるり一周してから、栗の木の下に向かい、得意のイガイガ捜し。私では思いもつかない場所ばかり。ほら、ここに行くと面白いよ、こうすると楽しいよ、との心の声が聞こえてきそう。ふと見ると、その子はお姉さんらの手をしっかり握り、つくしの園庭を笑顔で駆け巡っていました。

「子どもが初めての社会生活を過ごす場所」だからこそ実感してほしいことがある。

それは「あなたは、こんなにも、みんなから、愛されているんだよ」とのたった一つの事実。これから始まる長い人生のすべての基礎がそこにある。

(つくし保育園園長 つだかずお)

※来年度に向けて入園申込が始まります。当園にご興味のあるお知り合いがおられましたら、ご紹介をお願いします。随時の入園も相談いたします。